

## 野鳥公園で保全すべき鳥類について

### 1. エコパークゾーンへの鳥類の飛来状況等(アイランドシティ整備事業環境モニタリング調査)

エコパークゾーンを始めとする博多湾は、渡り鳥の中継地や越冬地として重要な役割を果たしている。鳥類はそれぞれの特性に応じて、これらの海域及び海岸域で採餌、休息、繁殖を行うなど、エコパークゾーン全域を一体となって利用している。

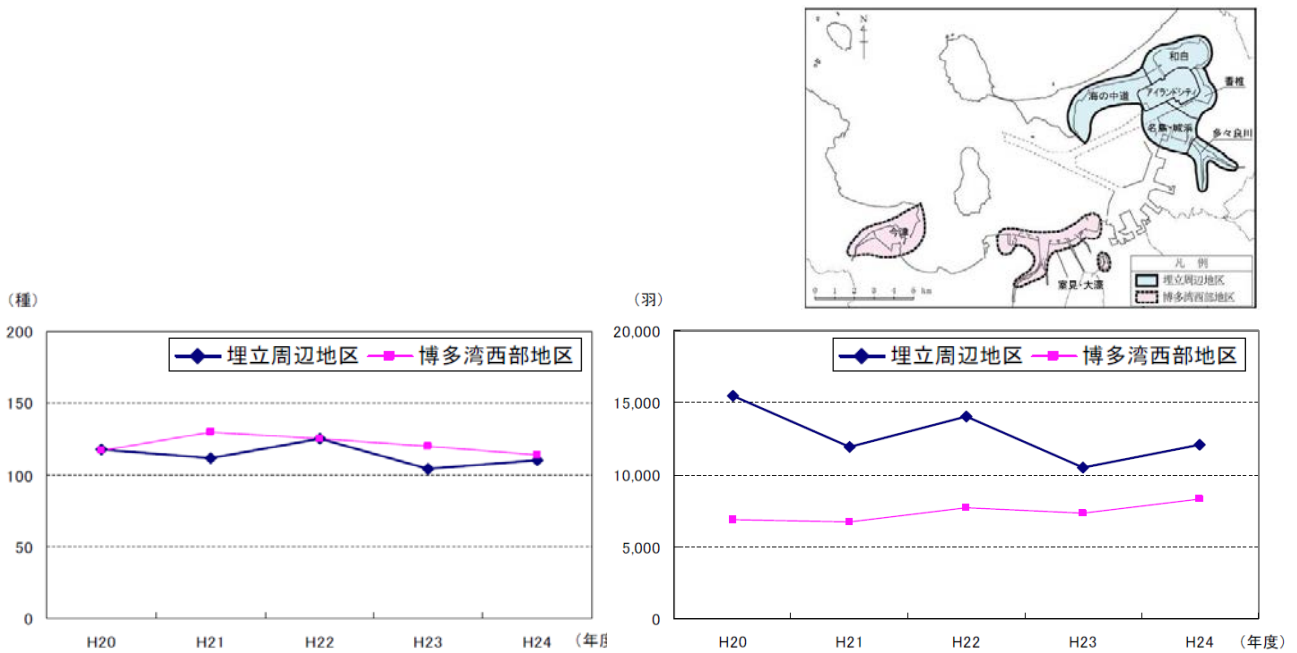


図1 博多湾に飛来する鳥類の種数・個体数

エコパークゾーン周辺に飛来する鳥類の類別個体数は、海ガモ類、陸ガモ類が多くなっている。

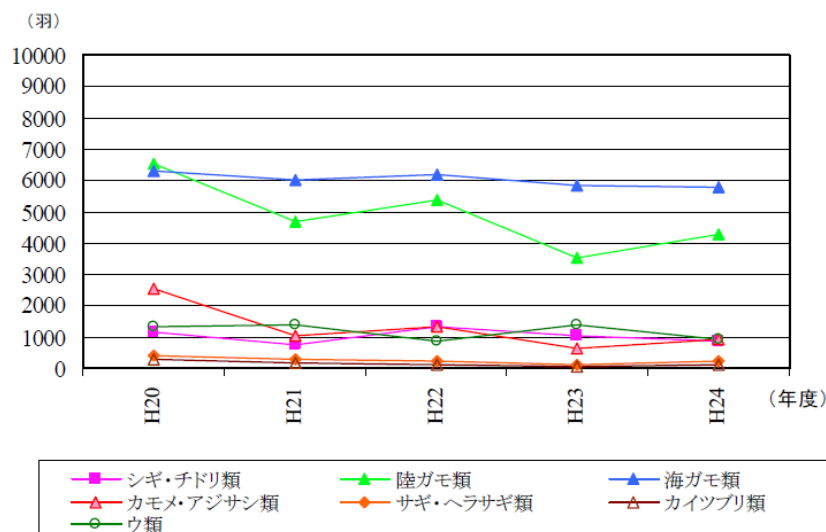


図2 エコパークゾーン周辺に飛来する鳥類の類別個体数

海ガモ類は海面の広い範囲を、陸ガモ類は和白干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用している。また、シギ・チドリ類は、採餌場としては和白干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用している一方で、休息場としては香住ヶ丘や香椎浜の岩礁帯などに加えて、アイランドシティ内が利用されている。

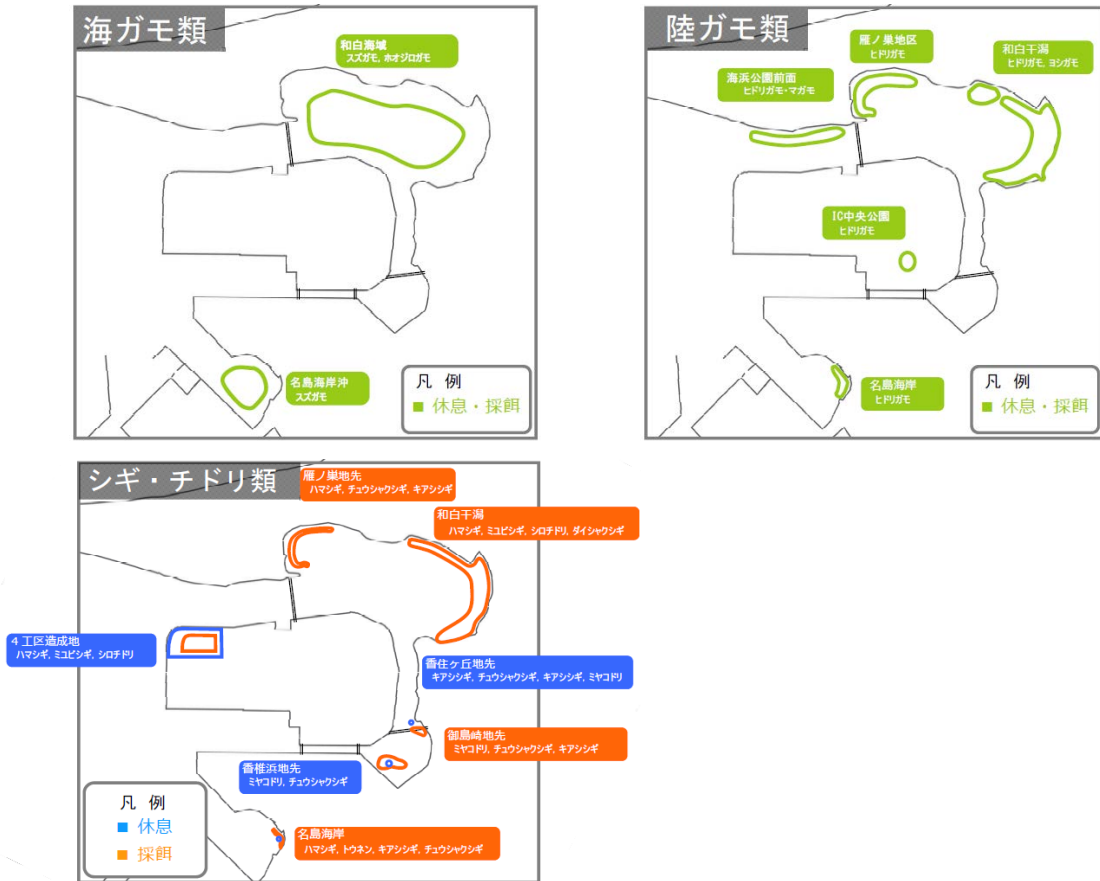


図3 エコパークゾーン周辺の鳥類の利用状況

シギ・チドリ類やカモ類が採餌に利用している和白干潟の餌生物量は、継続して確保されており、採餌場機能は維持されている。

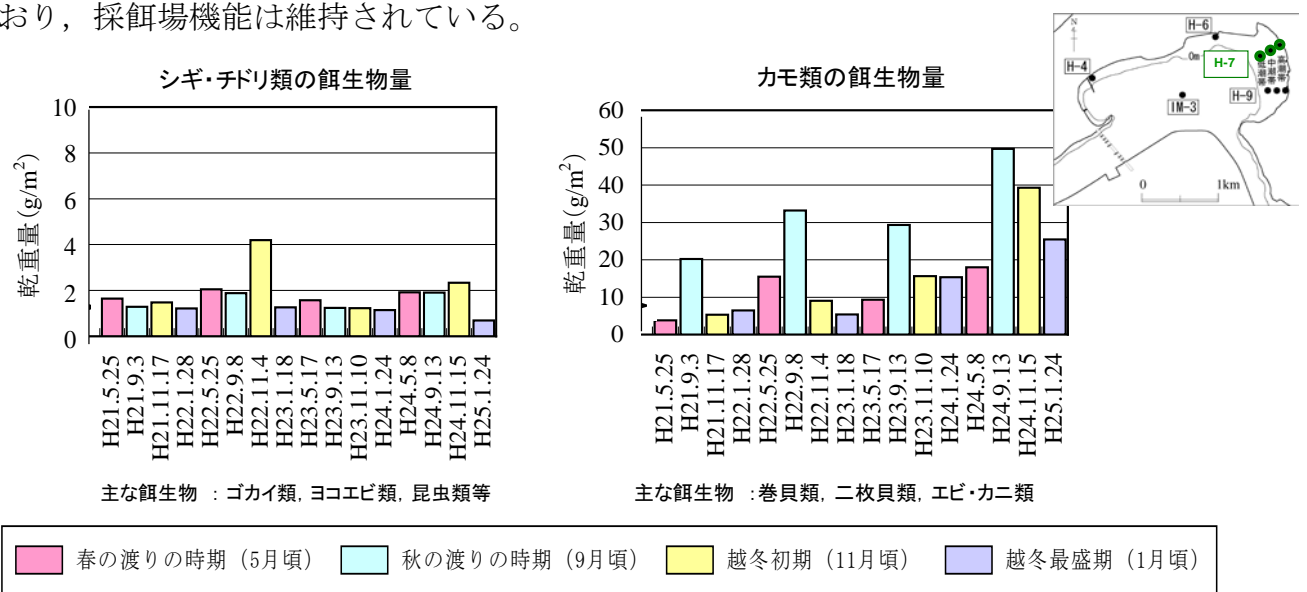


図4 和白干潟の餌生物量（底生物）（H-7地点）

## 2. 過去の提言等

### (1) 野鳥公園基本構想 (H18.5)

野鳥公園で対象とする主要な鳥類は、干潟を主要な生息域とする鳥類（主にシギ・チドリ類）、浅海域を主要な生息域とする鳥類（主にカモ類）およびこれに加え干潟を利用する希少種とする。

### (2) エコパークゾーン環境保全創造計画 (H22.3)

アイランドシティで埋立工事を行う工程で生じた一時的な湿地が、工事の進捗に伴い順次消失した後の鳥類の生息に必要な機能については、エコパークゾーンを含めた周辺環境全体で担っていくことが重要であり、今後実施すべき鳥類保全対策の検討結果は以下のとおりである。

- 海ガモ類：海面の広い範囲を利用していることから、影響は小さいものと思われる。
- 陸ガモ類：和白干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用していることから、影響は小さいものと思われる。
- シギ・チドリ類：採餌場機能については、和白干潟を始めとするエコパークゾーン全体や博多湾にある干潟などで十分な餌量を確保できると考えられるが、休息場機能については不足するおそれがある。
- クロツラヘラサギ：本来の生息環境である多々良川河口の干潟域や今津干潟で保全することが最適である。
- コアジサシ：これまで多くの営巣が確認されている海の中道の砂浜など既存の繁殖地をしっかりと保全していくことが重要である。

## 3. 野鳥公園で保全すべき鳥類

野鳥公園の検討にあたっては、和白干潟や周辺の浅海域等との機能分担やエコパークゾーン内での連携を図ることが重要であり、今後とも鳥類本来の生息域を保全していくとともに、野鳥公園内では、主としてシギ・チドリ類の休息場の検討が必要と考えられる。